

九州豪雨・朝倉の被災者支援

「支える会」結成総会

福岡市

2017年の九州豪雨で大きな被害を受けた朝倉市の被災者支援を目的とした「九州北部豪雨朝倉被災者を支える会」の結成総会が1日、福岡市中央区天神で開かれた。写真。約20人が参加し、現状の課題や今後の方針を話し合った。

被災者の一部はこれまで仮設住宅の入居期限延長を求めてきたが、県は7月に延長しないことを決めた。支える会は、弁護士やNP

0のメンバーら約120人で発足。今後、すべての被災者の救済に向け、必要な支援を掘り起こすなどの活動を展開していく。

この日の総会には、被災地の現状確認のため被災者も参加した。10月に仮設住宅の退去を迫られている古賀公子さん(67)は、大規模半壊した長男宅の再建を進めるが、大雨が降るたび工事が中断するなどして完成の見通しが立たない状況。

「先日の大雨でも川があふれそうになって危険を感じる。本当の復興には、まだまだ時間と経済支援が必要だ」と訴えた。

議長を務めた坂口裕晃弁護士は「被災者のニーズを吸い上げ、県や市を動かしていく必要がある」と話した。

(阪口彩子)

